茅ヶ崎　自然の新聞

18 年 9 月号（273 号）
【編　集】
茅ヶ崎自然の新聞編集委員会

【発　行】
茅ヶ崎市文化資料館
〒253-0055
茅ヶ崎市中海岸 2-2-18
TEL&FAX: 0467-85-1733
Mail:shiryoukan@city.chigasaki.kanagawa.jp

第20回　夏休み自然教室開催！

７月22日（土）・23日（日）の２日間、茅ヶ崎市文化資料館で「第 20 回夏休み自然教室」が開催されました。今回で２０回目をむかえる「夏休み自然教室」は、茅ヶ崎自然に親しむ会や文化資料館と活動する会（自然部会）、その他中学生を含む多くの市民ボランティアの協力を得て開催されてきました。

バードカービング（エナガを製作）や、小枝や竹を利用したクラフト、竹細工、昆虫コーナー、植物の拓本作り、顕微鏡コーナー、水生生物コーナー、野鳥コーナーなどで、身近な自然に関心を持ってもらうことを目的にさまざまな体験学習が行われました。またミニミニ自然観察会やビーチコーミングといった観察会も行われました。

２日間で７８４名の方が来場し大盛況となりました。参加した方々、ボランティアの皆様、ありがとうございました。

（文化資料館）

（左上：バードカービング、左下：ミニミニ自然観察会、右上：顕微鏡コーナー、右下：昆虫コーナー）

Nature Of Chigasaki In Brief
ちがさき自然情報

初めての出会いヒオドシチョウ

４月１日、清水谷の木道（湿地にかかる木製の橋）の中ほどまで来た時、ふわっと飛び立ったチョウがいました。キタテハかな、と思いましたが、少し大きいような感じがして大急ぎで後を追いかけました。クヌギ林に入って落ち葉の上に止まったところで写真を撮り、家に帰り図鑑で調べたところ、ヒオドシチョウの♂でした。10 年以上清水谷に通っていますが、初めての出会いでした。

（芹沢　安井利子）

ハマカキラン

今年も、ハマカキランが４月２２日ごろから庭のすみに出て、５月の連休の後頃から花を咲かせ、７月５日現在、花の後が袋の様な形にふくらんで少し枯れ色がかっています。去年より１ケ所少ない４ケ所に、去年の１０株より少ない７株でした。減ったので心配です。日当たりの良い場所には、１５～１６コの花が付き、成育の良くない場所の茎には４～９コ位の花が付いていました。

（富士見町　竹内民江）

柳島の花ごよみ（10）

霧雨が上がった５月９日、いつもの県立柳島青少年キャンプ場横の道路沿いから観察を始めました。サンゴジュ、ツルオオバマサキのつぼみを確認して反対側を見ると、満開のシロバナマンテマが道路脇に連なって咲いていて、以前より随分多いと感じました。昨年、キャンプ場内で群落になっていたマンテマの方も早く比較して見たいと思いながら歩いていきました。

ウラジロチチコグサが、ひ弱な感じに背が伸びて並んでいる状態や、近くのヨモギの葉に、テントウムシの成虫が群がっている所と幼虫が集まっている所が分かれていて面白いです。

地面にタブの冬芽の芽鱗が花びらのように落ちている所がありました。その中に何の花か分らないものがあり、しばらく立ち止まりましたが、「別の場所で探しましょう」と宿題にして先に進みました。

それから、トボシガラがきれいに開花している状態のものを皆でじっくり見ました。「葯の傍にあるブラシ状のものは何？」との疑問が出ました。それぞれに手持ちの図鑑を開いて探してもなかなか判定が難しかったのですが、何とか柱頭だと落ち着きました。私は、ひとりでは調べられないタイプなので、皆で図鑑を見比べて確認できることが非常に嬉しい時間です。

ミチタネツケバナの根生葉や、実の形が典型的な状態のものが見られ、アメリカフウロ、キュウリグサ、シロノジシャの可愛い花も咲いていました。

ここで、名前の分らない花をつけている枝が見つかりました。枝葉の様子からツルウメモドキと齊藤さんが判定し、花は雄花として一件落着でした。他にも私が間違えてしまったミゾイチゴツナギを訂正してくださり、ありがとうございました。

野鳥では、カワラヒワがいろいろな鳴き声を聞かせてくれ、上空ではイワツバメが 10 羽以上も飛び交わしていました。

キャンプ場に入ってお目当てのマンテマを探すと、昨年と同じ場所にありまし

たが、今年の方が少ないと思いました。

しかし、予想以上にハマエンドウの青紫色の花、ハマヒルガオの濃いピンク色の群落に出会えて歓声を上げました。本当に海浜に似合う植物です。いつものハマボウフウの場所には、若い蕾の様々な状態が見られ、定点観察することができることは有り難いことです。

この付近のコバンソウには褐色の斑点があり、そのことも昨年ここでの話題になったことを思い出しました。

純白の花をつけたカジイチゴの立派な株があり、実のなる頃が楽しみです。ハマダイコンの花もきれいでした。今月も優しい花をいろいろ見ることができ幸せでした。

（浜之郷　河野正子）

ツバメがえし

スズメ目ツバメ科、背は光沢のある青黒色、顔、のどは栗色、尾は長く二つに割れています。２０ｃｍほど。速く飛びながら昆虫を捕食する。今年も、資料館の周辺にツバメがやってきました。「飛んでいるな」という程度でしたが、もっと前にみたような気がします。

４月２日、福祉会館の芝生の上を２羽通過していったのが記録のはじめでした。４月６日、午前９時ごろ、民俗の展示物の花の世話の方と外に出ると道路や建物の空間を１３羽ものツバメが飛んでいました。しばらく見ていると電線にとまるツバメが出てきていました。４羽、３羽、１羽が別の場所にとまり、のこりの５羽は、まだ飛び交っていました。１３羽ものツバメが突然、どこからか飛んできて集まって来たのでしょうか。地面すれすれに飛び、電線を越す高さのところで燕返し（ツバメの素早く身をひるがえして飛ぶようす）を行っていました。１０時１３分ごろまでの１時間の出来事でしたがやがて、どこかへ飛び去ってしまいました。私の生活経験から見ると、北部の丘陵地、小出川沿い、水田、まちなか、中央公園、中海岸住宅地などと自然環境の違いがあってもどこでも飛び交っているようです。

（文化資料館　小室明彦）

ハシボソミズナギドリ

５月２０日、台風一号の影響で久しぶりに湘南海岸一帯に各種の漂着物が確認できた。海藻類は別として、ハシボソミズナギドリの死体が茅ヶ崎海岸から鎌倉海岸にかけて大量に打ちあがったようだ。当日、我々の仲間のビーチクリナップの協力者であり、総合学習で魚類の分野の協力者でもある長谷川さんが、地産センターから東海岸一帯を調査されたところ、１２０羽の死体を確認された。その一部を撮影した。まだ生きていた。

（菱沼海岸　井川洋介）

夏は来ぬ・ホトトギスの鳴き声を

“卯の花の匂う垣根にホトトギスはやも来鳴きて・・・”

５月12日午後２時、行谷新北陵病院付近で。５月27日午後０時半、市民の森駐車場付近で。

５月28日～31日、芹沢大谷自宅周辺で午前３時頃からほぼ一日中、特に５月31日は午後７時過ぎまで鳴き続けていました。

６月６日午前７時頃、芹沢大谷自宅の南側の林から聞こえました。５月末にウツギの花は盛りとなり、６月最初の日曜日、堤の田んぼは田植えが始まりました。

（芹沢　安井利子）

私、見ちゃったんです

昨年11月22日、清水谷の保全作業のメンバーが不思議な雨を目撃したという記事が「自然の新聞 270 号」に載りました。この日は兄の急病で作業を休み、現場に居合わせなくてとても残念に思っていました。

その後、三輪さんが調べられたところ、雨降らしの主は、ツマグロオオヨコバイらしいとのことでした。ごく当たり前に目にしている虫ですが、このような場面に出会ったことがありませんでした。

ところが５月17日、兄の見舞いの帰り道、我が家に程近いクヌギ林の縁で見たんです。

2～3 分で通り過ぎる道をいつものように 30 分以上もかけて、立ち止まったり、しゃがみこんだり、葉っぱを裏返したりしながら歩いていました。すると、ヤツデの葉の裏にきらっと光るものが見えました。のぞき込むとなんと！ツマグロオオヨコバイが葉に吊り下がり、脚をスリスリしながらおしっこ？をしていました。カメラを向け少しでも近くで、と欲張ったところ逃げられてしまいました。いつものパターンです。それでなくてもすばしっこいのに、おしっこをして身軽になったらなおさらです。それにしても体のわりに大粒のおしっこでした。

清水谷でヒメコウゾの幹に、立て並びにずらっと止まるツマグロオオヨコバイを見たことがありますが、「せーの！」でおしっこをしたら、清水谷でおきた雨が降るような状態がおこるのかも。しかし、かなりの数がいなくてはいけないし、長時間続くともなると…。

以前、クロアゲハが地面で吸水しながらおしっこをし続ける姿を見ましたが、ツマグロオオヨコバイも木の幹から汁を吸いながらおしっこをしていたのであれば降り続きそうです。

チョウは体を冷やすため、と聞いたことがありますが、ツマグロオオヨコバイは何のためでしょう。体を冷やすというには晩秋の出来事です。鳥は真冬でも水浴びもします。成虫越冬するツマグロオオヨコバイは、冬越し前に樹液から何がしかの成分を得ているのでしょうか。

似たような出来事が、毎年我が家の庭でも起きています。最初はミズキやサクラの葉が出揃った頃なので、吸い上げた水があまって葉脈の先から落ちてくるのかと思いました。ところがなかなか消えないので不思議に思い、葉の上に落ちた水滴を触ると粘り気がありました。

ミズキの樹液をなめたことがありますが、さらっとして無味無臭でした。そこでなめてみると少し甘味を感じました。落ちている葉を見ると葉脈に白っぽい粉が付いていて、どうやらこちらの雨の主はアブラムシのようでした。

今年の秋には、ぜひツマグロオオヨコバイのおしっこの雨を体験してみたいものです。

（芹沢　安井利子）

ヒメサユリ

2005 年は自宅の庭にも近所の雑木林にも、テッポウユリが、あの特徴あるトランペットのような花弁（かべん）を見せていた。

2006 年になると、今度はオニユリが勢力を増し、トランペット状の花は姿を消していた。海岸の砂防林の木陰では、昨年あたりから、あまり見かけないヒメサユリの花がちらほらと見かけられるようになった。たまたま何の花かわからなくて、写真の記録だけは毎年とっておいた。今日、昔の資料を整理しながら、2005 年 5 月 2 日の夕刊に「ユリ科大揺れ」というタイトルで特集号の記事がスクラップされていたのを偶然発見した。日本語のユリの語源は揺れる花、という意味の転用であるとのことも知った。

（菱沼海岸　井川洋介）

ミンミンゼミ変だぞ

今年のミンミンゼミは変だぞ。温暖化のせいかな？早くも６月２７日の午前７時 30 分頃、中央公園の市役所方面から「ミ～ン、ミ～ン」と２回ほど鳴き声を聞いたのです。幻聴（げんちょう）かなと思い、隣に歩いていた人に確認すると確かに鳴いていたと言われました。安心したので知人数名にミンミンゼミが鳴いたことを報告しました。ところが、それ以降全く鳴き声を聞く事が出来ず、やはり幻聴だったのかと不安になっていました。

７月 11 日、朝の散歩をしている時に中央公園近くに住んでいる方から、「6 月 29 日の午前中に、サティ側でミンミンゼミの鳴き声を聞いた」との報告を聞き、ようやく安心しました。

７月 16 日午前６時 30 分頃、パークタウンの敷地内で、自分の耳でミンミンゼミの鳴き声を確認するまで安心出来ない日々を過ごしていました。

７月 17 日午前８時頃、やはり中央公園内で、午後２時頃には北茅ヶ崎駅近くで、同３時頃には自分の住まいのマンション敷地内でと、この日は頻繁（ひんぱん）に鳴き声を聞くことが出来ました。ようやく自信を取り戻した一日でした。

17 日は浜降祭の日でしたが、17 時頃に神輿（みこし）が当マンション脇で休んでいる時の事です。「ア～ッ蝉が飛んでいる～」「ア～ッ鳥に食べられたぁ～」と、神輿の周りで遊んでいた児童たちの大きな声に、目の前の電線を見るとミンミンゼミをくわえたヒヨドリがいるではありませんか。カメラに収（おさ）めようと急いで取りに行き、戻って見るとヒヨドリは飛び去った後でした。お神輿もドッコイ、ドッコイと遠ざかって行き、先ほどまでの喧騒（けんそう）としていた我が家の前も静けさを取り戻していました。

（茅ヶ崎　中原和男）

小出川の花ごよみ

６月１日（晴）、浜園橋から下町屋橋の間を歩きました。植物たちも一番成長する季節を迎えています。

土手の下の両側には、ガマ、ヨシ、オオブタクサが水面が見えなくなる程に伸びています。

私たちが歩く土手には、ウラジロチチコグサが目立っています。このところ急に増えたように思います。カタバミの黄色い花が咲き、よくみるとオクラみたいな実が出来ています。実は触れても青くて、パチッとはじけるまでには熟してはいません。ミチヤナギも地味ながら葉の間に小さなピンクがかったつぼみをつけています。おどろいた事に、この草も漢方では薬草として、全草（ぜんそう）をよく水洗いして天日で乾燥したものを煎（せん）じて１日３回に分けて服用するのだそうです（ＹＡＭＡ－ＫＥＩ薬草より）。利尿、整腸にきくとあります。

ネズミムギの花も盛（さか）りです。イヌムギとカラスムギの違いを確認し、意外とイヌムギの方がこの辺には多いという事がわかりました。

ノイバラの葉に、ピンク色をした球形ですがところどころ角状（かくじょう）のとんがりがあるものがのっかっています。つぼみかと思うくらいとてもきれいな玉です。帰って本で調べると、ノイバラマルタマフシと呼ばれるバラタマバチの虫（むし）コブだったのです。

虫コブといえばエゴノキです。小出川に親しむ会で植えた、木の実の散策路のエゴノキが青い実をつけています。その枝先にはいくつかのエゴノネコアシと呼ばれるエゴノネコフシアブラムシの虫コブがありました。エゴノネコフシアブラムシにとって、エゴノキはなくてはならない木なのでしょう。エノキやムクノキにも青い実が沢山ついています。秋には鳥達のおいしい食料となることでしょう。クロガネモチにはうす紫色の小花（こばな）があつまって秋の実の時の派手さはなく、清楚（せいそ）に咲いています。ハゼの木は黄緑色の房状（ふさじょう）に咲いています。下町屋橋の手前の左岸には、フシゲチガヤがひとかたまり風にゆれていました。昔、茅ヶ崎ではこの花が一面に生えていたのだそうです。それで「茅ヶ崎」という地名になったのだそうです。その頃の茅ヶ崎の風景を頭に思い浮かべ、のんびりした遠い昔を想像しました。

（円蔵　高橋静子）

香川のアオサギ（追伸）

５月１０日付けで「香川のアオサギ」を報告させていただきました。香川の駅近く、浄心寺に接する林の中で、アオサギが営巣（えいそう）し、雛（ひな）がかえって巣立ちしたらしいことを記録しました。アマチュアの観察なので、来年にも野鳥の専門家の確認がなされれば良いのではなかろうかと感想を述べました。

ところが、この後に野鳥に詳しい方の確認が行われたのです。このことを、追伸として報告させていただきます。

５月３０日、この日の午後ゴルフの練習に出かけたのですが、親鳥が盛んに飛来してくるのが確認されました。いつもと異なり頻度が多く、二羽の親鳥が同時に寄ってきて、雛の声も「ジ、ジ、ジ」と大きいのです。

５月３１日、この日も盛んに親鳥が飛来し、雛との会話を交わしている。どうやら巣立ちがあるのではないかと考えられた。

午前１０時、谷戸仲間の三輪さんに連絡。午後１時に、文化資料館の野鳥調査のリーダーの小室さん、三輪さんが現地で観察。すぐに雛を確認して写真に収められた。私ではいくら見ても判らないも

のが、小室さんには一目で確認できたのだ。専門家というのはすごいものだ。

確認できたことは、雛は３羽であったこと。羽ばたきの姿勢を時々行うので巣立ちが近いと感じられたこと。巣は、タブとタブの間のクヌギに寄り添うように生えているマツの梢に懸けられていた。

高さ９メートルほどで風があれば大きく揺れる場所であった。また巣の下で、白い糞が確認された。観察している間に、１羽の雛が親鳥と飛び立った。残りの雛は２羽である。

小室さんにお聞きした話では、シジュウカラは卵を抱き始めるのはすべての卵を産み終えてからであるとのこと。またヨトウムシ等を捕まえるとくちばしに挟んで振り回し、体内の糞などを出して、残りの美味しい所を食べるのだそうである。

ところで、先日ムクドリがくちばしに何匹か餌をくわえながら、さらにくわえようとしていたので、どのくらいまでくわえられるのか聞いたところ、小室さんは笑いながら、「私にもわかりませんがどこかに限界はあるでしょう。しかし、複数のムシをくわえるのに便利な構造を持っているのかも知れません。」との話であった。

また手の甲に２匹の薮蚊が止まっているのを見つけて、甲を拳骨にして、筋肉を硬直させたので、この蚊は逃げられませんとおっしゃった。この話だけは本当か冗談か判りません。

（松風台　天野　謹）

横須賀市の菖蒲園

６月26日、横須賀市衣笠の菖蒲園に行った。「菖蒲園は大明寺の国道の反対側の郵便局の所を回り…」とあったが、道を間違えたので土地の人に聞いたら丁寧に教えてくれた。初めてなので切符の買い方がわからず、案内人が買ってくれた。

園内は起伏に富んで、また清水も湧いている様子であった。数ケ所の園地に菖蒲が植えてあった。白や紫の薄淡色、濃い紫また赤味かかったものなどがあった。去年移植したものはまだ成長していなかった。

水田には菅笠を被り着物を着た赤いたすきの女の人も３人いた。咲き終えてしおれた花をつんでいた。

その他には、いつ来ても色々な花が見られるようにとの配慮から、藤・大紫・沈丁花・アジサイ、また柳・桜・メタセコイヤ・シャクナゲ・ナンバンハゼなどもあった。サルビア・クロガネモチ・シモツケ草は薄いピンクであった。

この日は、梅雨の晴れ間で三々五々参観者があった。カメラ片手に撮影したり、老人会、車椅子の人も多くあった。

「マムシに注意」の立看板がたくさんあった。清水の湧く所にはマムシが多い。かまれると大変である。

（若松町　樋田豊宏）

青大将（アオダイショウ）

６月１１日に、藤沢市打戻（うちもどり）から獺郷（おそごう）へ行く農道の御所見（ごしょみ）外科の東側水田の間に、アオダイショウが道を横切っていた。

アオダイショウは、６月の晴れた蒸し暑い時期に大気をはいて道を渡っていた。その大きさは１ｍもあろうか。良く肥えて丸くしていて、皮は青黒くぎらぎら太っていた。自転車が近づくと、歯をむきだしてこちらに近寄ろうとしたが、急に向きを変えて草むらの中へ消えて行った。

それから６月の第４日曜日午前中、室田の特別養護老人ホームで、郷土会の講演会を聴いた帰り道、室田道を帰っていた際に道の中央付近で、車に轢（ひ）かれたばかりの蛇が死んでいた。あまり大きくはなく、茶色かかった蛇であった。７０センチぐらいであろうか、まだまだ若い蛇なのに運の悪いものだ。わざわざ道を横切ったばかりに轢（ひ）かれた模様である。

（若松町　樋田豊宏）

柳島の花ごよみ（１１）

６月１３日（火）、曇（くもり）。河野、吉田、齊藤で調査を始める。むしむしと暑い日。

キャンプ場わきの道に入ると、サンゴジュ、トウネズミモチが花盛り。特有の花の香りが一面にただよっている。さすがモクセイ科の植物だ。

西側の石垣よりに多くあったシロバナマンテマが花の終わりを迎え、枯れ色になっている中、たまに残り花の白が愛らしく目につく。

今年はエビヅルの花、若い実が多い。秋になり熟した実を賞味してみよう。

テリハノイバラの大きな白い花があちこちに見られる。ノイバラの仲間では一番大きい花ではないだろうか。

キャンプ場内に入る。場内の林内は本当にイヌビワが多い所。イチジクの実によく似た青い実をつけている。

キャンプ場の管理人さんはハマボウフウの保護に務めていらっしゃるだけに、大きな株、小さな株と、株数が多くなっているのがとても嬉しい。

さらに、去年も多くの株数を数えたハマカキランを見つけて歩くが、あまり見つけることができず、5 株を数えたのみ。

今日は太陽の光も少なく、曇りの日のせいか、林間が暗く見つけにくかったのかもしれない。海岸にふさわしい植物がたくさん蘇（よみがえ）ってほしい。

（東海岸南　　齊藤溢子）

6月の小出川沿い

６月 26 日、雨あがりの小出川沿いを聖天橋から西久保方面に向かって歩いてみると、小出川の土手にヤブカンゾウの花がひときわ鮮やかに咲いている。左岸の湿地の中に群生しているハンゲショウも白い色どりをしている。

この湿地には、シュレーゲルアオガエルが鳴き、冬にはクイナもいる。シュレーゲルアオガエルは、４月頃から鳴き始めている。

３月から４月にかけて見られる、ツマキチョウの雌雄（しゆう）も、かなりの数が見られる場所でもある。

しばらく歩くと、土手のフェンスにナワシロイチゴが、真っ赤な実をつけて、たわわになっている。ピンクの可憐な花と、赤いイチゴのコントラストが目をひく。

大曲橋から西久保方面に向かって歩くと、川の拡幅工事が進んで、新しい土手ができている。毎年この川の周辺で、カルガモのヒナと親の姿を見られたが、今年はまだ見ることができないようだ。コガモのオス・メスがまだいる。

川の中の低いコンクリートの上に、２羽のカワセミが止まっていた。よく見ると、１羽のカワセミが傍らにいるカワセミに餌（えさ）をやっている。（親子のカワセミか？）とも思ったが、雄が雌に与えた可能性が強い。近づくと、２羽とも別々の方向に飛んでいった。

周辺をよく見ると、畑と用水路の斜面一面にイタドリの花が満開に咲いている。小出川の土手から西久保の田んぼを眺めると、稲の苗の青々とした田の中に１羽のアオサギや２羽のダイサギが、のんびり田んぼの中にいる。ひと時、癒される光景かもしれない。

わずかなヨシのある場所から、「ギョシギョシ、ゲシゲシ」と鳴くオオヨシキリの声が聞こえてくる。４月頃から、この場所に居続けている。鳴き声の方を見ると、電線に止まって鳴いている。このオオヨシキリ、西久保の田んぼの側のヨシ原が気に入ったようだ。

（香川　目黒啓子）

ヘビ

７月３日（月）、庭の太い松の根元に、長さ１ｍ位のアオダイショウがいました。雨が少ないので水をまいたら出て来た、という感じでした。

（富士見町　竹内民江）

2006 年度の自然教室に想う

ここ数年間、関係者の皆さんの努力の成果が実を結んで、来場者数が毎年増加傾向にあり、喜びに耐えません。世代の変化も伴っているのか、子供たちを連れてくるご両親の姿が非常に目立ちます。私は自然教室と総合学習を一体のものとして考えています。漂着物の観察に海岸を歩きながら、私自身がこの学習に最初に興味を覚えた、黒潮が運んできた外国からの漂着物との出会いを話すことにしています。

子供たちや、ご両親を含めて、何かを調べてみようと思う物事との出会いを大切さにしていただきたいと願っています。

ビーチコーミングの様子

（菱沼海岸　井川洋介）

柳島花ごよみ（12）

７月４日、最高気温２９度と朝から蒸し暑い日でしたが、134 号の歩道橋の上で、近くに海が見えると涼しいような気がしてくるから不思議です。県立柳島青少年キャンプ場の入り口に着くと、今まで気がつかなかったキカラスウリの咲き終りをサンゴジュの木の上に見ることができました。

ヨウシュヤマゴボウが一つの穂（ほ）の中に蕾（つぼみ）、満開、若い実と三様の状態が見られます。マサキ、エビヅル、ノゲシ、ツユクサ、ネズミムギなどが満開になっていました。途中のギシギシとナガバギシギシの違いを湘南植物誌で確認してもらうと、実の形ではっきりエゾギシギシと分るものが見つかり、ささやかな発見ですがうれしいことでした。

トウネズミモチ、キレハノブドウのしっかり膨らんでいる蕾（つぼみ）があり、ヤブガラシの花盤は虫を呼び寄せるためか美しく色づいていました。オオバイボタの葉には、久し振りにサツマノミダマシを見ることができました。

下水道終末処理場側ではシロバナマンテマが、満開の時の可愛らしい花が想像できない様な姿で枯れていて、季節の移り変わりを感じました。その施設の崖に広く這っているテリハノイバラの葉の全体に、まるで蕾のように虫コブがついていました。奥まで進むと、満開のハルジョオンとメリケンガヤツリなどが崖面（がけめん）に沿ってずっと広がっていました。

他にも満開の草は、「ここでは初めてかしら」のトウバナや、いつものイヌガラシ、オニタビラコ、ムラサキカタバミ、スイカズラなどでした。アカメガシワの細長い雄花が目立って咲いている木が見られました。（７月１４日の小出川の土手には、雄株の木も雌株の木もあり、花を比較して見ることができました。）

いつもの道から海まで出る途中でジンガサハムシに、これも久し振りに出会えました。浜辺はキャンプ場のネット際まで工事が進められていて、ケカモノハシの株は無くなっていました。

気を取り直してキャンプ場を観察させていただくと、立派なハマボウフウが健在で、マンテマの花がわずかに残っていました。先月に８株ほど見つけたハマカキランは、その場所が下草刈りされてしまっていて、少し離れた所に１株のみしか見ることができませんでした。先月、辻堂海浜公園で見た多数の元気の良いハマカキランが思い出されました。この公園は手入れがよくされていて樹木の下でも苦労せずに発見でき、園内の道際にあるハマカキランもしっかり守られていて、関係者の地道な努力が感じられました。

今日の宿題は、植物でないのは申し訳ないのですが、電線に止まっていた６羽の野鳥です。松林から飛んで来て電線にしばらく留まっていたのですが、ムクドリのように足はオレンジ色ではなく、顔も違います。後で考えるとおそらくコムクドリではないかと思いますが、確認できませんでした。

もし、関係する情報がありましたら是非教えて下さい。よろしくお願い致します。

（浜之郷　河野正子）

マムシとヤマカガシ

８月８日、芹沢蓮妙寺の本堂の前で、マムシが今捕まえられて、殺されたようだった。大きさは 40 センチぐらい。尾の方がなくなっているようで、頭は棒などで打たれてあった。この日は連妙寺のお施我鬼の日で、大勢の人々が来ていたが、あまり騒がれていなかった。

芹沢では農薬がまかれて、死に絶えていると思っていたが、実物を見ることが

できた。

今年はマムシが当たり年だろうか。里山公園で、３匹もマムシが見付かっている。常盤さんの旧屋敷にもいたし、捕まえたと言う事も聞いている。里山公園には、「まむしに注意」の看板がある。座間市の谷戸山公園や横須賀市の菖蒲園にも注意を促す看板があるが、通路以外を通らないための脅しであると思っていたが、マムシが実際に里山公園にいる事が分かった。食いつかれてからでは遅い。

１日おいて８月10日朝、堤仲谷（なかや）吉田牧場の本家の南、昔の旧道に、今年卵から蛇にかえったばかりの小さいヤマカガシの死骸（しがい）があった。朝まだ８時前で、道に横たわり、腹を上にして死んでいた。たぶん自動車に轢（ひ）かれたのであろう。小出地区を通ると、轢かれたものを時々見受ける。

今日は台風７号が房総沖を通り、陽気が良いので、道へ出てきたのであろう。気温の高い時ほど、道端で見かける。

（若松町　樋田豊宏）

小出川の花ごよみ

７月13日、曇り、気温30度。まだ梅雨は明けていない。降りそうで降らない日が続いている。暑いけれど日差しはないし、風もあるのでいつもの３人で浜園橋の右岸から下流に向かう土手の草いきれの中を歩き出しました。すっかり深い夏草の中にも小さな花がありました。

いろいろな植物に虫コブがつき始めました。なかでもエゴノキが面白いです。

エゴノネコアシフシは、タマバエの幼虫の摂食に伴う刺激により、エゴの葉の組織が異常に増殖してできた虫コブです。ネコの足の肉球に似た、バナナ状の虫こぶにはそれぞれ数十匹の幼虫が見られ、すべてが雌（めす）でただ１匹の雌が元になり、雄（おす）なしで産卵する同属の雌集団です。７月になると、虫コブの先端の孔（あな）が開き、羽のある成虫が飛び出します。

もう一つ面白い観察ができたのは、クモの巣にかなり大きめの蛾（が）がかかったばかりでバタバタしているのに出会いました。するとクモが水あめ状の幅広の糸を、丸い大きなお尻から出しながらすごい速さで近づき、一気にグルグル巻いて縛り上げました。そしてぴったりと吸い付いています。クモは消化液をかけて捕らえた虫を溶かし、その液を吸い込む体外消化をするそうです。

この日帰ってからの夕方のニュースでは、熱射病患者が続出したことが伝えられていました。

（浜之郷　斉藤和子）

ぶらり小出川散策

背丈ほどに伸び青々した夏草は、小出川の川岸や土手を覆い、野鳥の姿を遮り、特に双眼鏡やカメラでの視界が悪く、写りも悪く悔しい思いでしたが、野鳥にとっては、ねぐら（すみか）だったり、休息の場や捕食（ほしょく）の場だったり、楽園にもなっていることを思えば良いのかも知れない。ちょっとのつもりが長々としたぶらりとなり時間をつぶしてしまうが次の野鳥に出会うことができました。

８月１６日，晴れ，午前６時２０分～午前７時２０分頃、場所は小出川の土手、萩園橋から大曲橋付近を往復。アマサギ９羽が休耕田（きゅうこうでん）で食べ物を探し、チョウ

ゲンボウが２羽舞っていた。チョウゲンボウとトビがニアミス、ドバトを追うチョウゲンボウなどと、足を止める場面も多かった。そのほかにカワセミのホバリング、ダイサギのくちばしの黒い鳥と黄色い鳥が舞う、コサギ、アオサギ、ゴイサギ、カルガモの飛翔、コヨシキリ（スズメ大で細めの野鳥で、ジュジュと鳴く）などの野鳥を見ました。

当日の観察結果は次のとおり。アマサギ９羽、アオサギ２羽、カルガモ１６羽、カワセミ１羽、カワウ３羽（高圧線）、キジバト２羽、コサギ２羽、コムクドリ（途中の電線で３羽）、コヨシキリ１羽、ゴイサギ成鳥１羽・幼鳥５羽、スズメ群れ、ダイサギ２羽、ツバメ５羽、チョウゲンボウ２羽、トビ２羽、ドバト７羽、ハクセキレイ２羽、ハシボソガラス３羽、ハシブトガラス５羽、ヒヨドリ２羽、ムクドリ６羽。（註：羽数は確認最大数。）

またクマゼミが、ほぼ同一時刻に、大曲（おおまがり）橋（ばし）付近１頭、聖天（しょうてん）橋（ばし）付近１頭。ツクツクボウシが午前７時頃、矢畑１８３周辺で。ツクツクボウシの初日でした。

８月１８日、晴れ、午前６時３０分～８時、場所は小出川の土手（浜園～萩園橋～大曲橋付近～聖天橋、往復）。16 日に確認できたの野鳥の種類の他に、キジ１羽♂、メジロ３羽、ササゴイ１羽の３種が加わりました。アマサギは７羽。（他の種類の野鳥の羽数は、16 日とは違います。）

８月１９日、午前４時３５分頃、矢畑自宅の庭でカネタタキの初日。同日午前６時１０分頃、コムクドリが１６羽、矢畑１８３付近のカキノキやウメの葉についた虫をついばんでいるようだった。

コムクドリは８月に入って、よく電線に止まる。１羽が向きを変えると、他のなかま一斉に向きを変える行動を取った。ちなみに、コムクドリのくちばしと脚は黒い。ムクドリはくちばしと脚がだいだい色である。地鳴きは両方とも「キュルキュル」。ムクドリと比べて全体的に白っぽく下面も白っぽかった。

コヨシキリはオオヨシキリと比べて、体色は淡く、「ジュジュ」とか「ジジ」という地鳴きし、オオヨシキリは「ギョ，ギョ」とか「ゲッゲッ」と地鳴きする。

（文化資料館　小室明彦）

越前クラゲ

８月２２日、ヘッドランド東側海岸に大型クラゲの漂着があった。毎年のミズクラゲの打ち上げと考えそばを通り過ぎようとした。肉厚なクラゲであった。

これはビゼンクラゲとすぐ判断した。固体は５０メートル幅に９個あった。もっと西側を歩けばあるかもしれなかったが、あまりの暑さに写真だけ撮影し帰宅。

（菱沼海岸　井川洋介）

“茅ケ崎植物会”創立 30 年を迎えて

日本では、社会教育は学校教育よりも低くみられている。ところが、最近高齢化社会になり、学校教育を受ける期間よりも社会教育を受ける期間の方が長くなってきた。

茅ケ崎市では、“茅ヶ崎植物会”が誕生した 30 年前には周囲の都市にくらべて、公立の公民館がまだ少なかった。茅ヶ崎市教育委員会社会教育課は、その欠点を補うために、茅ヶ崎市民による学習グループの結成を奨励した。しばらくして、人文関係のグループは多く生まれたが、自然関係のグループは結成されなかった。社会教育課は、この様な状態を改善するために、自然関係を学習するグループの結成を奨励することにした。一方、市民からもそのようなサークルの誕生を希望する意見が起こって来た。まず手始めにふつうの人が取り組みやすい植物関係のグループの結成を目指した。

1974 年、社会教育課は、当時の神奈川県立博物館の館員高橋秀男先生を招いて自然観察会を催した。翌年（1975）、社会教育課は、茅ヶ崎市公民館の講義室で高橋先生を招いて、市民教養講座「茅ヶ崎の野外植物を調べる実習コース」を、5 月から 10 月にかけて 10 回にわたり開催した。そのうち 2 回は、自然観察会であった。はじめは、講義室がいっぱいになる程の盛況であったが、次第に参加者が少なくなっていった。1975 年、この講座が終わって、勉強の継続を希望する人たちによって“茅ケ崎植物会”が結成された。1975 年 7 月 12 日の事である。

それから８ヶ月、『大磯高麗山、山北の皆瀬川流域、伊豆城ヶ崎海岸、当市芹沢方面の植物観察会、神奈川県立博物館、国立科学博物館「シダ展」の見学会、茅ヶ崎市立第一中学校の斉藤俊一先生の「淡水藻類」、日本電球工業会常務理事深津正一先生の「植物名の語源」、高橋秀男先生の「神奈川県のスミレ」についての講演会、テキストを用いての日本植物研究史、顕花植物の外部形態、植物命名規約に関する自主的勉強会、植物細胞観察実習会』を催している。大変な活動量であるが、これらの行事は植物についての知識を豊富にし、また自然認識を深めるために充分役立ったことと思われる。

1976 年 3 月には、会員の研修結果を発表する場として、会誌 ―茅ヶ崎植物会報― も創刊されている。その後この会誌は、名前を「はまかきらん」と改め現在も続いて発行されている。そののち、会員の茅ヶ崎市内の植物を観察する希望者が次第に少なくなってゆき、市内の栽培植物を観賞する会へと内容が変化して行った。

社会教育課は、その後貝類などの勉強会を開いたが、グループを結成することは出来なかった。しかし、“自然に親しむ会”が結成され、植物、昆虫、鳥、水生生物、貝類などを学んでいる。

1979 年、神奈川県立博物館を中心に「神奈川県植物誌」調査会が結成され、茅ヶ崎の“自然に親しむ会”や“茅ヶ崎植物会”の会員が数名、この活動に参加された。「神奈川県植物誌」調査会の活動で、湘南地区の調査の中心となったのは、平塚市博物館である。毎週木曜日に行われているこの活動に、茅ヶ崎植物会の数名の会員が参加してきた。それらの方々は植物に関する知識が非常に豊富になり、地道な調査などを続けておられる。最近は、次第に高齢になったので、後継者を育てる努力が必要であろうと思う。

これらの会や活動が、今後ますます発展されることを希望してやみません。

※『大磯…』は、会誌・茅ヶ崎植物会報、創刊号より引用

（藤沢市藤が丘　小原敬）

Information
案内

おしらせ

●「茅ヶ崎自然に親しむ会」
『大磯・鷹取山裾野の里地を訪ねる』
日時：９月１７日（日）
『真鶴の原生林を歩く』
日時：１０月１５日（日）
問い合わせは、
安井利子（５２－３８５６）まで

●「清水谷を愛する会」
日時：１０月１日（日）
９時３０分～１５時
集合場所：市民の森駐車場（堤）
問い合わせは、
田部許子（５１―２９５５）まで

●「柳谷の自然に学ぶ会」
『トンボをみよう』
日時：９月２４日（日）
９時 30 分～14 時
『秋の谷戸をみよう』
日時：10 月22 日（日）
９時 30 分～14 時
集合場所：小出支所
問い合わせは、
野田晴美（５１－８４８９）まで

●「駒寄川水と緑と風の会」
『香川公民館雑木林観察』
日時：１０月１日（日）
１３時 30 分
集合：香川公民館
問い合わせは、
池田尚子（52―8919）まで

●「三翠会」
三翠会では、市内の川や水辺の生きもの調査やタゲリをはじめとする野鳥観察、お米（タゲリ米）づくりのお手伝いなどに取り組んでいます。ご協力いただける方は、下記までご連絡下さい。
事務局：河村まき子（８７－８３１３）

記事募集！

自然の新聞では、みなさまからの投稿をお待ちしております。メール、FAX、手紙でＯＫです。
FAX：０４６７－８５－１７３３
メールアドレス：
shiryoukan@city.chigasaki.kanagawa.jp
★ 次号の原稿の締め切りは、11 月１日（水）までにお願いいたします。

秋の自然観察会「初秋の清水谷を歩く」開催！

秋の自然観察会「初秋の清水谷を歩く」を開催します。
貴重な自然が残る柳谷を散策し、自然観察をしながら、初秋の自然を観察してみませんか。
とき：９月３０日（土）
じかん：１０時～１４時
ばしょ：茅ヶ崎市堤
（清水谷および市民の森）
集合場所：市民の森駐車場に１０時
持ち物：歩きやすい服装、お弁当、水筒
先着：２０名
申込み：９月１２日～（文化資料館まで）